

2024 SUPER TAIKYU Round.2

FUJI 24H

All Photographs by Noriaki MITSUHASHI / N-RAK PHOTO AGENCY

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2024
Empowered by BRIDGESTONE
第2戦 NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース

2024年5月24日(金)～26日(日)
富士スピードウェイ(静岡県)



総合連覇達成も、液体水素2年目の挑戦は困難との闘いに

2024年のスーパー耐久シリーズは、4月の第1戦 SUGO を終え、いよいよシリーズ最長のレースである第2戦 NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レースを迎えた。ROOKIE Racing にとっては、地元での一戦であることはもちろん、『モータースポーツを起点としたもっといいクルマづくり』の原点とも言えるレースであり、良い思い出も悔しい思い出もたくさん詰まったレースだ。

そんな大切なレースに向け、ORC ROOKIE Racing の 32 号車は、“水素カローラ”こと ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept を今季初登場させた。液体水素での挑戦2年目となる

が、オフの間にポンプを改善。昨年は二度のポンプ交換があったが、今季はついにポンプ交換なしで24時間走破を予定した。また、異形の燃料タンクを投入し、これにともない航続距離も増加。また走りながらCO2を回収する装置も改善するなど、多くの進化とともにレースに臨んだ。

一方、ORC ROOKIE GR86 CNF Concept は第1戦 SUGO から大きな改良は加えられているわけではないが、ドライバーの思いどおりに動くクルマづくりを進めていった。そして中升 ROOKIE Racing は、昨年はこの富士を制し、チャンピオンへの流れを作った。もちろん狙うは連覇だ。

そんな一戦に向け、頼もしい味方たちも加わった。32号車には昨年に続きヤリ・マティ・ラトバラ、そしてモリゾウの誘いで近藤

真彦も加入した。また28号車には大政和彦、そして SUPER GT で ROOKIE Racing とともに戦う福住仁嶺が加わった。



スポーツ走行 / STEL 専有走行

5月22日(水) ~ 5月23日(木) 天候:曇り 路面:ドライ



長い富士 SUPER TEC 24 時間のレースウィークは、5月22日(水)のスポーツ走行から始まった。晴天のもと中升 ROOKIE AMG GT3、ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept、ORC ROOKIE GR86 CNF Concept とともに週末に向け準備をスタートさせた。これまで2日間4回もの開発テストを重ね、熟成に熟成を重ねてきた ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept も、まずは順調にラップを刻んでいった。

走行2日目となった5月23日(木)は曇天のもと午前9時50分から専有走行1回目が、午後2時50分から専有走行2回目が行われた。ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept は午前はモリゾウ、この日から合流した近藤とラトバラが交代しながら走り、午後は佐々木雅弘がチェックした後、近藤、ラトバラ、小倉康宏と交代。車両は大きなトラブルはなかったが、ラトバラのドライブ中に ABS のトラブルがあったのが気になる

ところ。ただ初日からモリゾウ、近藤、ラトバラ、小倉の“チーム内ベストタイム争い”は盛り上がりを見せ、走行後もドライバー全員で談笑しながら車載映像を長く見つめているシーンが見られた。

ORC ROOKIE GR86 CNF Concept は、坪井翔から福住仁嶺、佐々木栄輔、大政和彦と交代。午後も同様に交代しながらラップを重ねた。「僕は水曜しか走りませんが、事前のテストで多かった課題に対していろいろと取り組み、走り出しのバランスは良くなってきました」と語ったのは大嶋和也監督。

一方、浮かない表情だったのは中升 ROOKIE AMG GT3 の片岡龍也監督だ。午前は蒲生尚弥、ジュリアーノ・アレジ、鶴飼龍太と交代しながら走り、午後は片岡もステアリングを握ったが、「悪くはないのですが、いまひとつ良くもありません。トラクションはあるけど曲がりづらく、曲がりやすくと、今度はトラクションがなく

なるんです。このままでもいけるけど、できればもっと気持ち良く走りたいです」とセットアップに悩んでいると明かした。今季は総合優勝争いも熾烈な戦いが予想されており、やはりスピードは欲しいところだった。

今回は24時間レースということもあり、陽が落ちた午後7時からは夜間練習走行が1時間行われた。中升 ROOKIE AMG GT3 はセットアップを進めるべく、鶴飼をのぞく3人が周回。ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept はレースでの夜間走行を担当する予定の佐々木とラトバラがドライブした。一方、ORC ROOKIE GR86 CNF Concept はこの夜間走行は走らず、翌日の予選日に備えていった。



公式予選

5月24日(金) 天候:晴れ 路面:ドライ

5月24日(金)は、午前はコース上での全車撮影が行われ、走行は午後0時から公式予選のみが行われるスケジュール。ROOKIE Racing は2グループの予選に ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept と ORC ROOKIE GR86 CNF Concept が出走。そして中升 ROOKIE AMG GT3 はXグループの予選に臨んだ。

多くのメディアの注目を集めている ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept は、この予選で白熱のチーム内タイムアタック合

戦が行われた。モリゾウのタイムを上回らんとする近藤、ラトバラだったが、まずはAドライバー予選でモリゾウが2分01秒401というタイムを記録。思わず近藤も「本当に速い」と舌を巻いた。ラトバラ、近藤が2分02秒919、ラトバラが2分01秒080と、そのタイムが記録されるたびにピットは大きな盛り上がりにも包まれることになった。液体水素という大きな挑戦をともなった参戦ではあるが、これこそ“プロフェッショナルながら

アットホーム”という ROOKIE Racing の雰囲気そのものの予選となった。

一方、ORC ROOKIE GR86 CNF Concept はAドライバー予選で佐々木栄輔が1分54秒663を記録。さらにBドライバー予選では坪井が1分53秒196を記録。合算で総合31番手につけてみせた。

そして、中升 ROOKIE AMG GT3 は、Aドライバー予選で鶴飼が1分42秒444、Bドライバー予選でアレジが1分40秒

804を記録したが、今回香港からスポット参戦している#33メルセデスのふたりのドライバーが速さをみせポールポジションを獲得したことから、中升 ROOKIE AMG GT3 は2番手からスタートを切ることになった。



GR COROLLA

#32 決勝レース

5月25日(土)～26日(日) 天候：曇り～雨～曇り 路面：ドライ/ウエット/ドライ

いよいよ迎えた5月25日(土)の決勝レース。午前9時20分から行われたウォームアップを経て、いよいよ午後4時、多くの注目を集めるなか決勝レースの火ぶたが切って落とされた。ORC ROOKIE GR Corolla H2 conceptのスタートドライバーを務めたのはモリゾウだ。

序盤、すぐに後方から速いグループ1の車両が迫り、コース各所でトラブルなども多く発生するなか、モリゾウは安定したペースでレースを進めていく。今回、ORC ROOKIE GR Corolla H2 conceptは夜間に30週の航続距離を実現することを目指しているが、まずは一度目のピットインは18周目。モリゾウは早めにピットにORC ROOKIE GR Corolla H2 conceptを向け、一度目の給水素を実施。多くのファンが心待ちにした近藤に交代した。

ただ、近藤に変わって16周が過ぎようかというタイミングで、ORC ROOKIE GR Corolla H2 conceptはパナソニックコーナーでスローダウン。コーナーイン側に突如停止してしまった。

実はこのトラブルは、これまで開発テストを行ってきた時点でも

発生していた、水素を送るためのポンプの“空打ち”と呼ばれる症状で、特定の状況になるとセクター3で発生していたものだったが、何重にも渡る対策を行っていたことから、今回その心配はないと思われるものだった。

ピットで状況を見守っていた石浦監督は、テスト時にまったく同じ状況を体験していただけない、すぐに無線で近藤に指示を送る。イグニッションのオン/オフを行うと症状が回復することから、コクピットの近藤は再起動を実施。なんとかピットに戻ることができた。

とはいえ、停止していた場所はコーナリングポイントで、やや危険な状況でもあった。石浦は「事前にちゃんとお伝えしておくべきでした。申し訳ないことをしてしまいました」と悔しがった。

ORC ROOKIE GR Corolla H2 conceptは一度ピットで確認を行い、ヤリ・マティ・ラトバラに交代しふたたびピットアウトしていく。ただ、今度は78周をこなした段階で、ラトバラはABSの不調を訴えてふたたびピットに戻ってきてしまった。

車重など、特殊なレーシングカーであるORC ROOKIE GR Corolla



H2 conceptはABSも専用のものが使われているが、ハードではなく、ソフトに関連するトラブルだった。専有走行で一度症状が出ていたもので、対策も行ってはいたが、再度トラブルが発生してしまったのだ。

ABSは安全にも関わるもので、チームは抜本的な対策をサーキットでスタートさせた。同時に、水素ポンプに関わるトラブルの解消にも動いた。走れないことは残念だが、エンジニアたちを成長させる良い機会でもある。一度スポンサーとサーキットを離れていたモリゾウは、ピットに戻り報告を受けると、改善を期待し一度サーキットを後にした。

エンジニアたちは、急遽現場でABSの新たなプログラムを作り上げ、ハード面でも対策を施していった。富士スピードウェイには花火が上がった後、雨が降り出したが、路面を濡らしきった午前0時過ぎ、テントでレーシングスーツ姿のまま待ち続けた佐々木に改善点が説明され、午前0時14分、ふたたびORC ROOKIE GR Corolla H2 conceptは佐々木のドライブでコースに戻っていった。

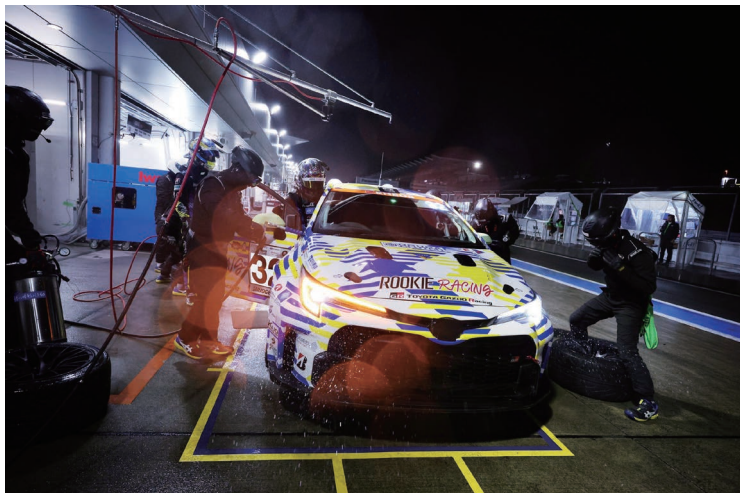
雨の夜のなか、ORC ROOKIE

GR Corolla H2 conceptは、佐々木、石浦のドライブで繋ぎ、深夜3～4時には石浦のドライブ中に目標の1ステント30周を、さらに続くステントでは31周を達成。再度ラトバラに交代する。

ただ午前7時37分、ふたたびABSに不調を抱え再ピットイン。その後も佐々木、小倉と交代したが、1時間を超える作業が二度。最後は佐々木がドライブし、ORC ROOKIE GR Corolla H2 conceptは332周でチェッカーを受けた。

液体水素での2年目の挑戦は、事前のテストでは出なかった多くのトラブルに悩まされた。しかし、同時に多くの教訓と経験を得た。メンバーたちからは、困難に直面した喜びすら感じられた。

まだチャレンジは2年目。ORC ROOKIE GR Corolla H2 conceptの挑戦は、まだまだ未来へ向けて続いていく。



GR86

#28 決勝レース

5月25日(土)～26日(日) 天候:曇り～雨～曇り 路面:ドライ/ウエット/ドライ



多くのファンを集め、曇天のもと迎えた5月25日(土)午後3時からの決勝レース。これまで順調にレースウィークを進めている ORC ROOKIE GR86 CNF Concept のスタートドライバーを務めたのは豊田大輔だ。序盤から速さが異なる各クラスの車両たちが入り乱れるなか、順調に序盤のレースを進めていくと、開始から1時間19分をきっちりとドライブ。続いてピットで待ち構えていたのは佐々木栄輔だ。

第1戦でもしっかりとレースを戦い経験を積んでいた佐々木だったが、スティント序盤こそ順調に走行を進めていたものの、交

代から1時間前後というタイミングで思わぬトラブルに見舞われてしまった。まず佐々木は、コース上の危険を知らせる黄旗区間での追い越しによりドライブスルーペナルティが課されてしまう。さらにそのペナルティを消化しようとしたタイミングで、今度は焦りが出たためかピットレーンのホワイトラインカットをしてしまった。こちらでもドライブスルーペナルティ。立て続けに二度の違反を犯してしまった。

開発ドライバーが本業である佐々木にとってはこれもまた糧となるもの。僅差の争いがあるわけではない ST-Q クラスだからこそドライバーも成長していくのかもしれない。ピットに戻った佐々木は恐縮しきりだったが、大嶋和也監督は笑顔でペナルティを諷めつつ、佐々木を元気づけた。

佐々木から交代したのは、大政和彦。この第2戦富士 SUPER TEC 24時間レースが初めての ORC ROOKIE GR86 CNF Conceptでのレースとなったが、安定したペースでラップを重ねていった。この頃には、サーキットは陽が落ち暗くなっていく。ここからはナイトセッションだ。

監督も兼務する大嶋だが、夜間走行をものともせず、安定したペースで夜のダブルスティントをしっかりとこなしていくと、2時間40分以上の長いドライブを経て ORC ROOKIE GR86 CNF Concept をピットに戻した。時刻は午後11時が近づいていたが、ここで大嶋から交代したのは坪井だ。

ただこの頃から、富士スピードウェイには雨が降り出した。次第に路面が濡れていくことになるが、坪井はそんな状況下でもさすがの走りでラップを続けた。

しかし、そんな坪井の頑張りに対し思わぬトラブルが襲いかかった。突如パワーを失い、時速10km/hほど程度しか出なくなってしまったのだ。坪井は安全に配慮しながら、なんとか ORC ROOKIE GR86 CNF Concept をピットに戻したが、原因は燃料センサーのトラブル。原因究明と作業には1時間13分ほどを要してしまっ

この頃にはすっかりコースはウエットとなっていたが、坪井から交代した福住は、順調にダブルスティントを消化。早朝までしっかりと繋げ、明るくなってから二度

目のスティント担当となった大輔に。ここからは大輔がダブル、大政と交代。佐々木もダブルスティントをこなし、序盤のミスを取り返す走りを見せた。

午前11時過ぎからは、ふたたび坪井が ORC ROOKIE GR86 CNF Concept のコクピットに乗り込むと、537周目には1分54秒276というこのレースでの最速タイムを記録する。

その後はチェッカーまで快調な走りをみせた ORC ROOKIE GR86 CNF Concept は、福住、そしてフィニッシュドライバーを大輔が務め、終盤接触によるスピンがあったものの、最終的に640周を走破し24時間レースを締めくくることができた。

佐々木のペナルティはまだしも、そして深夜の燃料系トラブルが大ききロスとなってしまったが、これもまた『もっといいクルマづくり』への大きな経験でもある。昨年は大きな手ごたえを得ていた開発の道だが、まだまだ終わりはないということだ。

今シーズンは2戦を終え、手ごたえと課題を得続けている ORC ROOKIE GR86 CNF Concept。まだその挑戦は続く。



#1 決勝レース

5月25日(土)～26日(日) 天候:曇り～雨～曇り 路面:ドライ/ウエット/ドライ



迎えた5月25日(土)午後3時からの決勝レース。今回、中升ROOKIE AMG GT3は通常のレースと同様4人のドライバーラインアップで臨んでいるが、24時間の長丁場。鵜飼龍太を明るい時間帯に走らせたい一方で、監督も兼務する片岡龍也がいつドライブするか考えなければならない。昨年と同様、片岡はなるべくレース序盤に自らの担当スティントを済ませ、レース後半は監督に専念していく作戦を採った。

予選2番手からスタートした中升ROOKIE AMG GT3は、その片岡がスタートドライバーを担当。序盤ジェントルマンドライ

バーがスタートを担当した#33メルセデスをオーバーテイクしたものの、毎戦激しい戦いを展開している最大のライバルである#23メルセデス、そしてプロがドライブするときに速さを発揮する#81GT-Rと三つ巴のトップ争いを展開していった。

レースは序盤から他クラスでトラブルやアクシデントが相次ぐものの、フルコースイエロー(FCY)導入で処理されることが多く、戦略に差を生むセーフティカーが入ることなくレースが続いていく。中升ROOKIE AMG GT3は片岡から鵜飼に交代、さらにジュリアーノ・アレジ、蒲生尚弥と交代しながらレースを進めていくが、#23メルセデス、さらにコンスタントな走り続ける#31RCF GT3とはまったく差がついていかない。ピットインのたびに3台は順位を入れ替えていく展開となり、そのバトルは陽が落ち、火花が上がリ、午後11時30分ごろに雨が降り出してからも延々と続いていった。レースはしばしばFCYが入るものの、3台は2周前後しかギャップがつくことがなく、緊張したレースを延々と続けていくことになった。

夜間走行を片岡、アレジ、蒲生の3人で乗り切った中升ROOKIE AMG GT3は、午前6時にメンテナンスタイムと呼ばれるレース中に一度はこなさなければならぬガレージ内での作業を実施。さらに午前7時40分には鵜飼がふたたびコクピットに戻り、定められたドライブ時間を減らしていった。

朝の段階で、メンテナンスタイムを先に消化したことで#23メルセデスとの3周ほどのギャップがついていたが、午前10時、FCYのタイミングで#23メルセデスがメンテナンスタイムを実施。ここでアレジがドライブしていた中升ROOKIE AMG GT3は、夜間に二度のペナルティがあった#23メルセデスをついに逆転し、ふたたびトップに返り咲くこととなった。

中升ROOKIE AMG GT3は、まだ鵜飼のドライブ時間を残している状況で、2台のギャップは1周ほど。さらに、#31RCF GT3も2周ほどのギャップで続いていた。コース上での目に見えるバトルはないが、レースは4時間を切った最終盤に向け、緊迫の度合いを増していった。

午前7時40分、レースが残り3時間を切ったタイミングで中升ROOKIE AMG GT3はピットに戻り、アレジから鵜飼に交代。その間に、先にピットインしていた#23メルセデスが同一周回に戻し、さらにギャップをグングンと削りとってきた。鵜飼も粘りの走りをみせると、ちょうど700周で蒲生にスイッチした。

一方、#23メルセデスは736周でピットインすると、Aドライバーにスイッチ。ここで蒲生から交代したアレジはラストパートを決め、最後は1周差をつけフィニッシュ。中升ROOKIE AMG GT3は富士SUPER TEC 24時間レース連覇を果たした。「昨年は勝ちましたが、スピンとペナルティがありました。今年はとにかくアクシデント、ペナルティなし、確実性を大事にしていましたが、それを24時間やり切れたことは本当に大きいし、だからこそ勝つことができました」と24時間を戦い切った片岡監督は振り返った。

この勝利によって、中升ROOKIE AMG GT3はランキングでも大きなリードを保つことに成功した。



MORIZO's Voice



ありがとう！　そしておめでとう！

私はこのレースが始まる前にこう言いました。

「全員がヒーローであり、最後に終わったときは『ありがとう』と言い合える」

「結果はそれぞれあるかもしれない。これがレース」

「この結果を活かせば、未来は変わる」

結果的に、「ありがとう」と笑顔で終えられた24時間レースだったと思います。

改めて、ありがとうございました！

そして、おめでとうございました！

2024年第2戦富士 リザルト (TOP5)

5月23日 スーパー耐久 STEL 専有走行1回目 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	230	Nissan Z Racing Concept	1'46.373
2	92	GR Supra Racing Concept	1'46.429
3	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	1'53.719
8	32	ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept	2'02.197

5月23日 スーパー耐久 STEL 専有走行2回目 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	230	Nissan Z Racing Concept	1'47.231
2	92	GR Supra Racing Concept	1'48.590
4	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	1'53.322
8	32	ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept	2'02.722

5月23日 スーパー耐久 夜間走行 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	230	Nissan Z Racing Concept	1'46.693
2	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	1'56.000
3	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA3 Bio concept	1'56.519
4	32	ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept	2'02.796

5月24日 スーパー耐久 公式予選 A Dr. (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	230	Nissan Z Racing Concept	1'46.911
2	92	GR Supra Racing Concept	1'47.512
4	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	1'54.663
8	32	ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept	2'01.401

5月24日 スーパー耐久 公式予選 B Dr. (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	92	GR Supra Racing Concept	1'46.189
2	230	Nissan Z Racing Concept	1'46.725
4	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	1'53.196
8	32	ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept	1'59.070

5月24日 スーパー耐久 公式予選 A + B Dr. (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	230	Nissan Z Racing Concept	3'33.636
2	92	GR Supra Racing Concept	3'33.701
4	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	3'47.859
8	32	ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept	4'00.471

5月24日 スーパー耐久 公式予選 C Dr. (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	230	Nissan Z Racing Concept	1'48.221
2	92	GR Supra Racing Concept	1'48.512
4	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	1'54.947
8	32	ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept	1'59.587

5月23日 スーパー耐久 STEL 専有走行1回目 (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	1'41.634
2	81	DAISHIN GT-R GT3	1'41.975
3	1	中升 ROOKIE AMG GT3	1'42.280
4	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	1'43.105
5	31	DENSO LEXUS RC F GT3	1'43.513

5月23日 スーパー耐久 STEL 専有走行2回目 (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	1'41.848
2	1	中升 ROOKIE AMG GT3	1'41.858
3	81	DAISHIN GT-R GT3	1'41.914
4	31	DENSO LEXUS RC F GT3	1'42.118
5	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	2'53.014

5月23日 スーパー耐久 夜間走行 (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	1'41.726
2	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	1'41.790
3	1	中升 ROOKIE AMG GT3	1'41.874
4	31	DENSO LEXUS RC F GT3	1'42.204
5	81	DAISHIN GT-R GT3	1'42.503

5月24日 スーパー耐久 公式予選 A Dr. (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	1'41.859
2	1	中升 ROOKIE AMG GT3	1'42.444
3	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	1'42.977
4	31	DENSO LEXUS RC F GT3	1'43.219
5	81	DAISHIN GT-R GT3	1'43.883

5月24日 スーパー耐久 公式予選 B Dr. (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	81	DAISHIN GT-R GT3	1'40.187
2	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	1'40.402
3	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	1'40.686
4	1	中升 ROOKIE AMG GT3	1'40.804
5	31	DENSO LEXUS RC F GT3	1'40.976

5月24日 スーパー耐久 公式予選 A + B Dr. (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	3'22.261
2	1	中升 ROOKIE AMG GT3	3'23.248
3	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	3'23.663
4	81	DAISHIN GT-R GT3	3'24.070
5	31	DENSO LEXUS RC F GT3	3'24.195

5月24日 スーパー耐久 公式予選 C Dr. (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	81	DAISHIN GT-R GT3	1'41.626
2	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	1'42.840
3	31	DENSO LEXUS RC F GT3	1'42.880
4	1	中升 ROOKIE AMG GT3	1'43.203
5	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	1'44.617

2024年 第2戦富士 リザルト (TOP5)

5月24日 スーパー耐久 公式予選 D Dr. (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	92	GR Supra Racing Concept	1'47.864
2	230	Nissan Z Racing Concept	1'48.219
6	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	1'58.268
8	32	ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept	2'01.823

5月24日 スーパー耐久 公式予選 D Dr. (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	81	DAISHIN GT-R GT3	1'42.222
2	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	1'42.535
3	31	DENSO LEXUS RC F GT3	1'42.789
4	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	1'43.022
5	1	中升 ROOKIE AMG GT3	1'43.084

5月24日 スーパー耐久 フリー走行 E + F Dr. (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	230	Nissan Z Racing Concept	1'48.530
2	92	GR Supra Racing Concept	1'50.024
3	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	1'53.816
7	32	ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept	2'01.080

5月25日 スーパー耐久 ウォームアップ (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	81	DAISHIN GT-R GT3	1'40.420
2	1	中升 ROOKIE AMG GT3	1'42.475
3	31	DENSO LEXUS RC F GT3	1'42.780

5月25日 スーパー耐久 ウォームアップ (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	271	Honda CIVIC TYPE R CNF-R	1'53.975
2	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	1'55.510
3	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	1'55.937
4	32	ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept	2'02.114
5	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA3 Bio concept	2'16.584

5月26日 スーパー耐久第2戦富士 決勝レース結果 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Laps	Time	Gap
1	92	GR Supra Racing Concept	715	24:02'23.074	
2	230	Nissan Z Racing Concept	685	24:02'12.466	30Laps
3	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	673	24:02'54.604	42Laps
4	12	MAZDA SPIRIT RACING ROADSTER CNF concept	667	24:02'46.931	48Laps
5	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	640	24:02'21.394	75Laps
6	271	Honda CIVIC TYPE R CNF-R	613	24:02'34.060	102Laps
7	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA3 Bio concept	505	24:02'47.305	210Laps
8	32	ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept	332	24:02'21.246	383Laps

5月26日 スーパー耐久第2戦富士 決勝レース結果 (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Laps	Time	Gap
1	1	中升 ROOKIE AMG GT3	773	24:01'25.739	
2	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	772	24:01'46.392	1Lap
3	31	DENSO LEXUS RC F GT3	770	24:01'59.085	3Laps
4	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	751	24:03'12.073	22Laps
5	81	DAISHIN GT-R GT3	746	24:02'05.304	27Laps



ROOKIE RACING

Super Taikyu
Japanese Endurance Race

ROOKIE Racing の活動は、多くの皆さまのご協力によって支えられています

